

2013.3.10

三次市総合計画「みよし百年物語」評価結果に対する  
第三者評価報告書

平成25年3月

早稲田大学大学院政治学研究科公共経営専攻 教授 塚本 壽雄  
早稲田大学大学院政治学研究科公共経営専攻 教授 山田 治徳

## 1. はじめに

三次市総合計画「みよし百年物語」は、平成18年度を初年度とし平成26年度に及ぶ計画であり、同市ではこれに基づき目指すべき理想のまちの姿の実現に向けたまちづくりの目標を立て、そのための施策を定めている。しかし、本計画策定当時の想定を上回る経済社会情勢等の変化に伴い、計画と現実の乖離が大きくなりつつあるため、市では今年度より、平成26年度を初年度とする新しい総合計画の策定に向けた検討に着手している。

こうした状況を踏まえ、市からは、今回の一連の作業においては、これまでのまちづくりの成果と課題の整理の上に立って、今後のまちづくりの方針を明らかにしていくことで、新しい総合計画策定に向けてのステップとしたいとの要請があった。

このような経緯および趣旨を踏まえ、本報告書は、三次市総合計画「みよし百年物語」の目標達成状況および進捗状況について、三次市総合計画等策定委員会が行った評価結果に対し、三次市より委託を受けた早稲田大学大学院政治学研究科公共経営専攻・塚本壽雄（教授）および山田治徳（教授）の両名が、自立的かつ客観的立場に基づき、さらには教育研究機関としての大学の知見を活用した外部評価を実施した結果を取りまとめたものである。

## 2. 評価の概要

### （1） 評価対象と手順

三次市総合計画等策定委員会（以下、「策定委員会」とする）は総合計画を構成する6分野の合計25のまちづくりの目標について評価を行っている。第三者評価はこれらの目標に対する評価結果を対象として実施した。

評価手順としては、最初に25の「まちづくりの目標」各々に関する評価を行い、次いでこれらを6つの分野ごとにまとめることで「分野」ごとの評価を行い、最後に全体としての評価を総括として取りまとめることとした。

### （2） 評価項目と基準

第三者評価、いわゆる外部評価の目的は、評価における客観性の確保にある。については策定委員会が行った評価に対し、以下の3項目についてそれぞれの視点から妥当性を評価することで、その目的を果たすことを目指した。

#### ① 評価手段

把握すべき成果の特定、成果の把握・分析手法の設定、そして評価の実施、評価の結論に至るまでの評価のプロセスにおいて、たとえば次のような手順等が踏まれており、そのことが示されているか。

- ・目的や目標とその遂行手段との間の対応関係を明らかにすること。
- ・得ようとする成果と当該政策に基づく活動により実際に得られている成果との関係を明らかにすること。

## ② 使用する資料やデータ

評価に使用した資料やデータについて、信頼性確保のための手立てが行われているか。

## ③ 評価結果とその説明の整合性

評価結果は、評価の過程において明らかとなった事実関係やデータや指標の解釈など、政策実施に伴う諸効果を把握・分析した結果の論理的説明および帰結となっているか。

しかし、今回の第三者評価の目的は、市からの要請にあるとおり、総合計画に基づくこれまでのまちづくりの成果と課題の整理の上に立って、今後のまちづくりの方針を明らかにすることにある。したがって今般の第三者評価の実施については、プロセス評価となる上記①、②よりも、政策評価の本質とでもいうべき③の部分、とりわけ目標の達成状況およびその解釈に関する点を中心に評価を行うこととした。

## (3) 評価方法

今般の第三者評価の実施に際しては、現地調査、実地調査や担当者ヒアリングは行っていない。「三次市総合計画『みよし百年物語』評価結果」に記載されている内容を基本に、補足的に市から提供のあった資料を用いることで評価を行っている。いわゆる書面評価である。また「評価結果」に記載されている内容では、評価の過程やそこで利用可能なデータ、また判断の理由、根拠などが必ずしも網羅的、且つ整理された形で提供されているとは言い難い。「評価結果」の記載内容のみをもとにして、厳密な意味において適正な評価を行うことは極めて難しいと言わざるをえない。したがって本評価においては、限定的ながら次のような方法で評価を取り行うこととした。

数値目標を掲げている目標については、その達成状況をもとに判断を行う。具体的には、市から提示のあった最新時点での数値に対し、計画のベースライン数値として示されている平成16年（度）の数値、および目標年度の平成23年（度）の数値と比較・分析することで達成状況の評価する。

数値目標を掲げていない目標については、評価基準が明確ではないため、総合計画の趣旨から期待される施策や事業の内容や量について想定を行うことで評価を行う。

これらに加え、平成16年度から現在までの、各目標に関わる事業の実施状況や、その他政策に関する取り組み努力やその進展に関する情報を把握し、分析することで、より行政運営の実態に即した評価を行うこととした。

### 3. 評価結果

評価の手順としては前述のように、最初に25の「まちづくりの目標」各々に関する評価を行い、次いでこれらを6つの分野ごとにまとめることで「分野」ごとの評価を行い、最後に全体としての評価を総括として取りまとめることとしている。しかし本章の記述は、まとめとして最初に総括を述べ、以降各論を説明する方式を取っており、(1) 総括、(2) 6つの分野、(3) まちづくりの目標の順になっている。

#### (1) 総括

今回の総合計画において特記すべきこととして、計画期間中に想定外の大きな出来事に見舞われたことがある。時系列順で、アメリカの金融危機に端を発した世界同時不況（平成19年）、そして東日本大震災（平成23年）である。急速な少子・高齢化の進行、人口減少社会の到来、グローバル競争の激化、産業構造の変化、深刻な財政状況など、公的部門を取り巻く諸環境の変化の中で、地域が直面する多くの課題に取り組んできた自治体に対し、これらは更に大きな影響をもたらした。

当然、三次市もその例外ではなく、ただでさえ厳しい状況下において、さらに向かい風が加わるなかにおいて、計画で掲げた目標の達成を目指しての行政運営が求められることになった。その結果、当初の目標に対し、既に目標達成または達成が十分に可能と思われるものは半数に及ばない。目標達成は難しいと評価されたものが過半となっている。

このような結果だけを見るならば、厳しい現実と認めざるを得ない。目標達成が難しいと評価されたものが多い分野は、「健康・福祉」、「文化・学習」、「産業・経済」である。しかしこれらの分野の特徴として次のような点が指摘できる。高齢化の進展や経済社会環境など政策による操作が困難な環境変数の影響を強く受けること、そして政策の効果が短期的には顕在化しにくい分野であることである。さらには目標達成が難しいと評価されたものについてもその大半においては、それらの成果は完全には顕在化していないものの、明確な意図の下に目標の達成に向けた様々な取組みが行われていることが認められる。また目標自体が計画期間中の想定外の出来事を前提としない状況下において設定されたことも、結果的に現実と目標値の乖離を際立たせた要因の一つでもある。したがって、今般の総合計画については、総じて順調に進行していると評価してもよいのではないかとと思われる。

総括としての評価は以上であるが、若干の付記を行いたい点がある。まず目標の中に定性目標が多い現状がある。政策評価の基本として、政策効果は、政策の特性に応じた合理的な手法を用いて把握すること、そしてできる限り定量的に把握することがある。設定された目標の中には定量目標を用いた方がより望ましいと思われるものが見受けられる。定量目標を用いることには、政策の意図がより明確になることで、市民に対する行政としての説明責任の徹底を実現することができるメリットがあることを指摘しておきたい。

また行政活動の意図、内容およびその産出が必ずしも明示的になっていない点がある。

政策の中には、その取組みが成果として顕在化するまでに時間を要するものが多い。また政策以外の要因が目標に影響を及ぼす場合も多い。したがって単に目標の達成状況だけを見るだけでは、政策評価の目的を達成することはできない。ついてはどのような意図のもとに各取組みが行われ、その結果、何がどの程度行われたのかといった行政上の一連の行為に関する情報は評価を行うに際し有益であることも併せて指摘しておきたい。

## (2) 6つの分野について

以下、計画であげられた6つの分野について、それぞれを構成する目標に対する評価をまとめる形で、分野毎の評価を行う。

### ① こども

5つの目標のうち「★★★★★目標達成できている」が3、「★★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる」が2となっており、概ね順調に進行していると評価できる。「★★★」と評価されたものについても明確な意図の下、様々な取組みが行われており、中長期的には期待が可能である。

### ② 健康・福祉

3つの目標のうち「★★★★★目標達成できている」、「★★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる」、「★★★目標達成は極めて難しい」がそれぞれ1となっている。しかしながら、「★★」と評価されたのは特殊な要因に基づくものであり、市の施策や取組みに起因するものではない。「★★★」と評価されたものについても明確な意図の下、目標の達成に向けた様々な取組みが行われている。よって本分野においても概ね順調に進行していると評価できる。

### ③ 文化・学習

4つの目標のうち「★★★★★目標達成できている」が1、「★★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる」が3となっている。目標のうち3つは定性目標であり、かつ理念的目標である。したがってそれらの達成の基準は明確ではなく、その完全な達成は現実的には難しいという問題がある。このため多くが「★★★」と評価されたが、これらについても明確な意図の下、目標の達成に向けた様々な取組みが行われている。よって概ね順調に進行していると評価できる。

### ④ 産業・経済

4つの目標のうち「★★★★★目標達成できている」が1、「★★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる」が2、「★★★目標達成は極めて難しい」が1となっている。本分野は他の分野にも増して経済社会環境の変化の影響を大きく受ける分野であり、計画期間中

の経済社会環境の動向を踏まえれば、目標の達成が難しい分野でもある。こうした状況において、目標達成度の観点からすれば厳しい評価とはなるものの、明確な意図の下、目標の達成に向けた様々な取組みが行われていることが認められる。よって本分野においても概ね順調に進行していると評価できる。

#### ⑤ 環境

5つの目標のうち「★★★★目標達成できている」が3、「★★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる」が1、「★★目標達成は極めて難しい」が1となっている。このうち「★★」と評価された目標についても、目標の達成に向けた取組みは行われており、必ずしもその成果は明示的ではないものの、その原因は市の施策や取組みに起因するものとは認められない。また「★★★★」と評価された目標については、目標自体に曖昧さが残るものの、大まかなながらもその方向性を意図した取組みが進められている。よって本分野も概ね順調に進行していると評価することができる。

#### ⑥ 都市

4つの目標のうち「★★★★目標達成できている」が2、「★★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる」が1、「★★目標達成は極めて難しい」が1となっている。この分野の目標はすべて定性目標であり、概念的に曖昧さが残るものもある。しかし、大まかな部分はありながらもその方向性を意図した取組みが進められている。したがって本分野も概ね順調に進行していると評価できる。

#### (3) まちづくりの目標について

まちづくりの目標に対する評価は、「三次市総合計画『みよし百年物語』評価結果」（平成24年11月）において示された市の評定について、その妥当性を検証することで行った。

市による評定の区分とその表示は下記「三次市総合計画等策定委員会による評定の区分と表示」とおりであり、第三者評価においても同じ区分と表示を使用した。そして三次市による評定を「三次市評定」として、当方による評価を「第三者評価」として記載し、両者の差異を明示することで妥当性を表すこととした（次ページ【凡例】を参照）。

#### 三次市総合計画等策定委員会による評定の区分と表示

- ① 目標を十分に達成又は達成できると認められるもの → ★★★★★目標達成できている。
- ② 施策成果はあるが目標の達成はできないと認められるもの  
→ ★★★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。
- ③ 施策成果が十分ではなく目標の達成ができないもの → ★★目標達成は極めて難しい。
- ④ 特別な事情により、目標を達成することが不可能なもの → ★目標達成が不可能である。

また各目標ごとの表記も市の「評価結果」で用いられている表記を用いている（下記【凡例】を参照）。うち数値目標の明示されている目標については、計画初年度（平成16年）と計画最終年度（平成26年）の間に、市が「評価結果」において示している現時点での指標値（凡例の場合、平成23年の値）を付記している。

【凡 例】

■子どもをたくさん産み育てることの環境づくりを進め、出生率を増やします。

【合計特殊出生率】平成16年 1.51 → 平成23年 1.66 → 平成26年 2.07

三次市評定：★★★★目標達成できている。

第三者評価：★★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

## 第1 こども

「次世代を担う子どもたちが夢と希望を抱き、健やかに成長できるまちづくり」

### まちづくりの目標

■子どもをたくさん産み育てることの環境づくりを進め、出生率を増やします。

【合計特殊出生率】平成16年 1.51 → 平成23年 1.66 → 平成26年 2.07

三次市評定：★★★★目標達成できている。

第三者評価：★★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

合計特殊出生率は上昇しており、市は「目標達成できている」と評価しているが、目標値（平成26年：2.07）と現状値（平成23年：1.66）の乖離、および目標年までの期間を鑑みれば、目標達成は難しい状況にあると判断すべきと思われる。

しかし、同期間における国の数値の推移（平成16年：1.29→平成23年：1.39）と比較すれば、改善の幅は国を上回っている。これは市が評価するとおり、子育て支援策等の効果によるものと思慮されることから、「目標達成は難しいが、施策成果が見られる」と評価する。

### まちづくりの目標

■待機児童（保育所・放課後児童クラブ等）“ゼロ”を実現します。

三次市評定：★★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

第三者評価：★★★★目標達成できている。

市では、「目標達成は難しい」と評価している。しかし、放課後児童クラブ等待機児童数は、平成16年以降ゼロの状態を維持しており、保育所待機児童数についても着実に減少を続け、目標の達成に近い状態にある。さらに今年度内閣府が行った「国と自治体が一体的に取り組む待機児童解消『先取り』プロジェクト」に基づく「待機児童ゼロ計画」を国に提出した結果、保育所緊急整備事業が採択されるなど、着実な努力と取組みが行われていると認められる。よって目標は十分に達成可能と認められることから「目標達成できている」と評価する。

### まちづくりの目標

■児童虐待“ゼロ”をめざします。

三次市評定：★★★★目標達成できている。

第三者評価：★★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

市では目標にある“ゼロ”の表記について、「ことからの性格からいって、数値目標ととらえるべきでない」

としている。そのうえで児童虐待件数は一見増加の傾向にあるものの、これは虐待防止への意識が高まっていることを示しているとの認識を表し、「目標達成できている」と評価している。

確かにこのような実態はあろうが、少なくとも提示されている情報のみをもって、目標達成できているとの評価に対しては慎重にならざるを得ない。市を担当地域とするする県北部こども家庭センターの把握する指標、たとえば一時保護の件数の推移などは有力な指標の一つであろう。政策評価の性格上、保守的に判断を行うべきであり、そのためには十分な資料や根拠をもとに判断を行う必要がある。一方、市では、「すくすくネットワーク」の立ち上げや、子育て応援ダイヤルの設置など前向きな取組みも行っていることなどから、「目標達成は難しいが、施策成果が見られる」と評価する。

#### まちづくりの目標

■子どもたちのための学校改革を行います。

●子どもたち一人ひとりの才能を最大限に伸ばす教育を確立します。

三次市評定：★★★★★目標達成できている。

第三者評価：★★★★★目標達成できている。

学力を示す指標については、全国や県平均を上回って推移し、その乖離も拡大傾向を表している。また不登校児童生徒数等の指標についても順調に改善を続けている。よって「目標は達成できている」との評定は妥当と評価する。ひいては残りの計画期間においては、新たな目標の設定を期待したい。さらに付記するならば、定性目標よりもより政策の意図が明確となる定量目標の設定についても検討を望みたい。

#### まちづくりの目標

■子どもたちのための学校改革を行います。

●知識、能力、意欲に満ちた教員の育成に取り組みます。

三次市評定：★★★★★目標達成できている。

第三者評価：★★★★★目標達成できている。

市では、全国レベルの有識者を教育アドバイザーとして委嘱していること、教職員を対象に多様な研修会を行っていること、そしてその成果は学力調査の結果や不登校児童生徒の減少に表れているとして、「目標達成できている」と評価している。教員の育成が学力調査等の成果に結び付く蓋然性は高いことから、この評定については妥当なものとして評価する。

しかし、ここでの目標は、「知識、能力、意欲に満ちた教員の育成に取り組む」ことにあり、これを評価するには資料不足と言わざるを得ない。具体的には、研修実施回数や研修受講教員数など、取組み状況を表す定量指標の提示を期待したい。

## 第2 福祉・健康

「共に認め合い、支えあう、温かみと安心感のあるまちづくり」

### まちづくりの目標

■「健康寿命」（健康で自立した生活ができる期間）を延伸します。

【平均健康寿命】 平成16年度 80.8歳 → 平成23年度 82.2歳 → 平成26年度 83歳

三次市評定：★★★★目標達成できている。

第三者評価：★★★★目標達成できている。

指標値は着実に上昇しており、介護予防普及啓発事業、地域トレーニング拠点整備、運動ボランティアの養成等の具体的な事業等の裏付けもある。したがって目標の達成は十分可能と判断されることから「目標達成できている」との評定は妥当と評価する。

### まちづくりの目標

■だれもが住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らせるよう、独自の「地域包括ケアシステム」を確立し、元気な高齢者を増やします。

【元気高齢者の割合】 平成16年度 76.7% → 平成26年度 80%

三次市評定：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

第三者評価：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

指標値は漸減傾向にあるが、介護保険制度改正に伴い指標の連続性が保たれていない問題がある。よって制度改正がなかったものとして市が試算した値でみると、漸増傾向が見受けられるものの、改善の幅は僅かなものに留まっている。しかしながら市では、介護サービスの充実強化、介護予防の推進のための施策や事業に取り組んでいる。したがって「目標達成は難しいが、施策成果が見られる」との評定は妥当と評価する。

### まちづくりの目標

■市民一人ひとりが生涯を通じて健康管理ができる「終身電子健康手帳制度」の確立をめざします。

三次市評定：★★目標達成は極めて難しい。

第三者評価：★★目標達成は極めて難しい。

当該分野におけるICTの活用については国、県の動向に依るところが大きく、現状では国等の動向を見据えている段階にある。このため目標の達成を目指した具体的な取組みには着手できていない。したがって「目標達成は極めて難しい」との評定は妥当と評価する。

### 第3 文化・学習

「歴史と伝統を継承するとともに、学ぶ喜びをもてるまちづくり」

#### まちづくりの目標

■ 19の住民自治組織で「地域まちづくりビジョン」に基づく特色あるまちづくりを進めます。

三次市評定：★★★★目標達成できている。

第三者評価：★★★★目標達成できている。

住民自治組織の担当職員の配置や、住民自治活動のための拠点施設の整備、まちづくり活動に対する交付金による支援の実施など、「地域まちづくりビジョン」の実現に向けた支援のための取組みが行われている。これらを受け、市内各地域においては、住民自治組織を中心に様々な取組みが行われている。

したがって目標は十分に達成可能であると考えられることから、「目標達成できている」との評定は妥当と評価する

#### まちづくりの目標

■ 地域の伝統文化や歴史を大切にするとともに、美術館を核として魅力ある“みよし文化”を発信します。

三次市評定：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

第三者評価：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

地域の伝統文化や歴史を再発見、継承するために、指定管理者や地元住民組織と連携した活動を行っている。また市内4美術館の運営にも指定管理者制度を導入し、奥田元宋・小由女美術館を中核として、各館の個性を活かした企画、展示が行われている。その結果、入館者数は伸び悩んでいるものの、一部に改善の兆しは見られる。このため目標の達成は難しいと思われるものの、施策の成果は見られており、「目標達成は難しいが、施策成果が見られる」とする市の評定は妥当と評価する。

#### まちづくりの目標

■ 互いを認め、共に支えあう共生のまちづくりを進め、平和を願う市民の声を世界に発信します。

三次市評定：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

第三者評価：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

人権尊重や男女共同参画社会のまちづくりのための啓発事業、各種相談事業の実施など、共生のまちづくりのための活動が進められている。平和の願いを市民に普及する事業についても行われているが、目標にあるとおり、世界に発信という観点からすれば、特段特別の取組みが行われているとは認められない。したがって「目標達成は難しいが、施策成果が見られる」とする市の評定は妥当と評価する。

#### まちづくりの目標

■「総合型地域スポーツクラブ」を設立し、市民だれもがいつでも、どこでもスポーツを楽しめるまちづくりを進めます。

【総合型地域スポーツクラブ数】 現状：平成24年度 1クラブ（他に準備中2クラブ）

目標：平成26年度までに19クラブ以上

三次市評定：★★目標達成は極めて難しい。

第三者評価：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

現状から鑑みるに、目標値の達成は極めて困難と思われる。しかし、各種スポーツ大会や講習会の開催など、だれもがスポーツに親しめる環境づくりのための施策は着実に進められている。したがって「目標達成は難しいが、施策成果が見られる」と評価する。

## 第4 産業・経済

「多様な仕事を興し、地域産業に活力を与え、働く喜びをもてるまちづくり」

#### まちづくりの目標

■観光資源の魅力アップと国内・国外を問わず“観光都市みよし”の情報を発信し、滞在型観光を主とする入込観光客の増加をめざします。

【入込観光客数】平成16年度163万人 →平成23年度146万人 →平成26年度250万人

三次市評定：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

第三者評価：★★目標達成は極めて難しい。

入込観光客数は平成20年以降減少が続いており、目標を大きく下回る水準に留まっている。その原因としては市が分析する通り、景気動向等を含めた社会経済的要因はあるものの、直近では4年続けた減少となっていることに加え、計画初年度を下回る現状からは「施策成果が見られる」と認めることには躊躇せざるをえない。したがって「目標達成は極めて難しい」と評価する。

#### まちづくりの目標

■安全・安心、儲ける農業に取り組み、若者にも人気のある“食を守る農業”を目指します。

【農業産出額】平成16年度107億円 →平成17年度112億円 →平成26年度130億円

三次市評定：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

第三者評価：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

平成18年度以降の指標値が不明ではあるが、平成22年農林業センサスの指標を参考に判断すると

(農家数：14.4%減、経営耕地面積：15.6%減、ともに平成17年比)、目標値の達成は極めて厳しいと推測せざるをえない。しかしながら、取組として「安全・安心」「儲ける」「若者にも人気のある」「食を守る」という具体的価値を掲げ、意図の明確な政策が進められていることは積極的に評価できる。また集落法人育成支援の結果、法人集積面積が県内1位、法人数が県内2位となるなどの成果も表れている。したがって、「目標達成は難しいが、施策成果が見られる」との市の評価は妥当と評価する。

#### まちづくりの目標

■ 商店や商店街の独自性のある取り組みによるにぎわいを創出し、小売販売額の拡大をめざします。

【小売業年間商品販売額】平成16年度722億円→平成19年度719億円→平成26年度870億

三次市評定：★★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

第三者評価：★★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

平成20年度以降の指標値が不明ではあるが、その後の経済情勢等に鑑みれば、目標値の達成は極めて困難と推測せざるをえない。しかし、「チャレンジショップ支援事業」や空店舗対策事業など、消費者ニーズの多様化に対応できる商店づくりや商店街のにぎわいづくりのための施策を中心に、目標達成に向けた取組が続けられている。したがって、「目標達成は難しいが、施策成果が見られる」との市の評価は妥当と評価する。

#### まちづくりの目標

■ 経済団体などの関係機関・団体との連携や交通の利便性を活用し、企業誘致などによる雇用の場の拡大をめざします。

【進出企業数】 現状：平成23年度 13社 目標：平成26年度までに10社以上

三次市評定：★★★★目標達成できている。

第三者評価：★★★★目標達成できている。

平成23年度までに賃貸によるものを含めて13社が進出しており、既に目標を達成している。その後は平成21年に完成した三次工業団地Ⅲ期分譲地への企業誘致が課題となってきたが、24年中に1社の進出が決定している。ひいては残りの計画期間においては、新たな目標の設定を期待したい。

## 第5 環 境

「自然との共生を図り、安全で快適に暮らせるまちづくり」

### まちづくりの目標

■水資源を中心とした自然資源を保全するために、生活排水の処理を進めます。

【生活排水処理率】 平成16年度36% →平成23年度67% →平成26年度70%以上

三次市評定：★★★★目標達成できている。

第三者評価：★★★★目標達成できている。

指標値は順調に目標に近づいており、目標は十分に達成可能と考えられることから、「目標達成できている」とする市の評定は妥当と評価する。

### まちづくりの目標

■循環型社会を構築するために、一般廃棄物のリサイクルを進めます。

【一般廃棄物リサイクル率】平成16年度28% →平成23年度23% →平成26年度40%

三次市評定：★★目標達成は極めて難しい。

第三者評価：★★目標達成は極めて難しい。

レジ袋の有料化や生ごみ処理機購入費補助などの取組みは行われているが、ごみ減量化にはつながっておらず、指標値は漸減傾向にある。現状値の水準から判断すると、目標値の達成は極めて難しいと思われる。よって「目標達成は極めて難しい」とする市の評定は妥当と評価する。

### まちづくりの目標

■地域の防災力を高めるために、自主防災組織の組織化を進めます。

【自主防災組織数】 現状：平成23年度19組織 目標：平成26年度までに19組織以上

三次市評定：★★★★目標達成できている。

第三者評価：★★★★目標達成できている。

平成23年度に目標値を達成した。耐震性貯水槽の新設やポンプ車の整備など、その他地域の防災力向上のための取組みも進められている。ひいては残りの計画期間においては、新たな目標の設定を期待したい。

#### まちづくりの目標

■ 犯罪に強い地域づくり・環境づくり・人づくりにより、犯罪を半減します。

【刑法犯認知件数】 平成16年594件 → 平成23年326件 → 平成26年中“半減”

三次市評定：★★★★目標達成できている。

第三者評価：★★★★目標達成できている。

防犯活動への支援を通じた防犯意識の向上や防犯灯の設置による防犯環境の整備等を進めている。指標値は順調に低下を続けており、目標の達成は十分に可能と思われることから、「目標達成できている」とする市の評定は妥当と評価する。

#### まちづくりの目標

■ 安全・便利で環境にやさしい交通体系を確立し、市内外の移動時間を短縮します。

三次市評定：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

第三者評価：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

市街地循環バスや市民バスの運行など域内の生活交通の活性化のための取組みや、地方バス路線維持対策など広域的な交通体系の確立、道路整備の推進などが行われている。しかし、数値的な裏付けが無いことも含め、中間成果も含めた成果から判断される有効性は必ずしも明確ではない。しかし、目標達成に向けた方向性は明確であるため、「目標達成は難しいが、施策成果が見られる」との評定は妥当と評価する。

## 第6 都 市

「地域活動が活発で、にぎわいと活力に満ちたまちづくり」

### まちづくりの目標

■ 州都をめざしたまちづくりを進め、将来の10万人都市建設を目標とします。

三次市評定：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

第三者評価：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

「州都」は例えば中核市（20万人）に伍するような都市としての「格」を有すること及びそのことの認知を広く得ることとする理解は、現実に照らし合わせた場合、より適切と判断する。JR三次駅の周辺地区を市の玄関口と位置づけ、公共交通機関の連携強化やにぎわい創出を始めとする駅周辺整備事業の実施による都市の中核・拠点機能の強化や、広域交通網の整備など、都市としての格や県北での拠点性を強化する取組みが進められている。しかしながら本目標は長期的視座に基づくものであるため、「目標達成は難しいが、施策成果が見られる」との評定は妥当と評価する。

### まちづくりの目標

■ “みよし情報”の積極的な発信を行い、三次市の知名度アップと定住・交流人口の増加をめざします。

三次市評定：★★★目標達成は難しいが、施策成果が見られる。

第三者評価：★★目標達成は極めて難しい。

人口、入込観光客数とも減少が続いており、目標の達成は難しい。知名度についてはそれを裏付ける指標はなく、達成度の測定は困難である。ホームページやCATV等、各種メディアを通じた情報の発信が続けられているものの、たとえば「おいしい！広島県」キャンペーンを積極的に活用した取組みについて、少なくとも外形的には顕在化していないなど、「積極的な発信」の観点からは必ずしも十分とは評価できない点もある。以上から「施策成果が見られる」と評価することは難しく、「目標達成は極めて難しい」と評価する。

■都市のエントランスとして、JR三次駅周辺整備を推進し、まちににぎわいを創出します。

三次市評定：★★★★目標達成できている。

第三者評価：★★★★目標達成できている。

JR三次駅の周辺地区を市の玄関口と位置づけ、都市の中核・拠点機能の強化やまちのにぎわいづくりのための施設整備が進んでいる。にぎわいの概念が曖昧であるため達成度の測定が困難な問題は存在するものの、事業そのものの進捗は順調であり、平成26年末の完成を見込んでいる。よって目標の達成は十分可能と認められることから、「目標達成できている」とする市の評定は妥当と評価する。

#### まちづくりの目標

■19の住民自治組織で「地域まちづくりビジョン」に基づく特色あるまちづくりを進めます。(再掲)

三次市評定：★★★★目標達成できている。

第三者評価：★★★★目標達成できている。

市内すべての住民自治組織で地域まちづくりビジョンに基づき、目標の実現に向けた事業が進められており、目標の達成は十分可能と思われることから、「目標達成できている」とする市の評定は妥当と評価する。